２０２６年第８回 KS 国際文学賞　審査所感

詩人としての使命感

受賞者・佐川亜紀は、１９５４年東京に生まれ、横浜国立大学教育学部を卒業した。
１９８５年、月刊詩文学誌「詩学」新人賞を受賞し、文壇に出た。

大学時代、韓国の金芝河詩人の救援運動に参加して韓国の詩人たちと縁を結び始めた。１９９１年、第一詩集『死者を再び孕む夢』で第２５回小熊秀雄賞、第２３回横浜詩人会賞を受賞し、１９９３年に詩集『魂のダイバー』を出版、２００４年に詩集『返信』で第４回「詩と創造」賞、２０１２年詩集『押し花』で第４６回日本詩人クラブ賞を受賞し、
２０１７年詩集『さんざめく種』、２０２４年『その言葉はゴーヤのように』を出版した。
２０１４年に韓国で第５回昌原 KC 国際文学賞を受賞した。

その詩は貧困と戦争による女性や子どもたちの被害に対し痛みを感じ、代弁し、
反戦運動、環境運動などでもアジアと世界の人々と連帯し活動してきた。その延長線上でアフガニスタンの人権問題と母なる地球の戦争に対しても多様な声を発している。

詩篇ごとに日本の歴史と東アジア国家に対する深い考察と人間を凝視する洞察が投影していて、未来に向かって意志と希望がいっぱい満ち、強い余韻が残る。
詩語は知的側面にも叙事的ながら、思惟の重量感を感じる。

佐川詩人がこの度出版した韓国語翻訳詩集『灰色の乳房』は、二番目の詩集だ。
本詩集は、日本で最近刊行した詩集『さんざめく種』と『その言葉はゴーヤのように』
を中心に編集、翻訳したものだ。生に対する魅力的な、そして批判的な視線が際立つ詩篇が詩集をいきいきと成立させている点も高く評価した。
長らく韓国詩に深い愛情をもって限りなく愛してきた佐川詩人の詩集が韓国の読者たちにも広く愛されるように祈る

＜審査委員＞キム・ジョンフン（文芸評論家・高麗大学教授。文責）

２０２６年第１回　ソウルＫ国際文学賞
第８回　KS国際文学賞　授賞式　＆世界詩　朗読会

２０２６年１０月１６日（金）午後５―６時３０分
場所　「文学の家・ソウル」１階中央ホール
後援　ソウル特別市　水原文化都市フォーラム
主管　文学の家・ソウル

開会式次　　司会　　ファンチュングク
国歌斉唱、黙禱、祝辞、挨拶　チェドンホ（崔東鎬）
第１部　朗読会　イグンベ（詩人、３９代大韓民国芸術院　会長）
Bill Wolak、慎達子、シンダルジャ、トンシヨン、チョンフェヨン、パクチョングック
Laura Garavaglia

第２部　授賞式
＊第１回　ソウルＫ国際文学賞　授賞式
審査所感　オヒョンヨプ（文学評論家、高麗大学教授）
受賞者　Emmanuelle Maihappe（フランス）
受賞者　金后蘭（韓国　文学の家）

＊２０２６The Poet of the Year
Bai ling　白靈　（台湾）

第８回KS国際文学賞　日本　佐川亜紀
審査所感　キンジョンフン（文芸評論家　高麗大学教授）